

1. 略歴

1981年3月	東京大学文学部国文学専修課程卒業
1984年3月	東京大学大学院人文科学研究科国語国文学専門課程修士課程修了
1984年4月	東京大学大学院人文科学研究科国語国文学専門課程博士課程退学
1986年4月	東京大学文学部助手
1988年4月	フェリス女学院大学文学部専任講師
1991年4月	フェリス女学院大学文学部助教授
1993年4月	上智大学文学部助教授
1999年4月	東京大学大学院人文社会系研究科助教授
1999年4月	博士（文学）（東京大学）
2006年10月	東京大学大学院人文社会系研究科教授（現在に至る）

2. 主な研究活動

a 専門分野

中世文学、和歌文学

b 研究課題

和歌文学については、マクロ的には和歌史を構想し記述すること、ミクロ的には新古今集前後を中心とした中世和歌作品の方法を解明することを課題としている。前者は専門化し、細分化された研究の現状に対して、和歌を長い射程のもとに捉え、この文芸のもつ意義と独自性を総体的に把握することを目指している。後者は、作品を完成したものとして結果論的に捉えるだけでなく、より作者自身の方法に即した、内在的な理解を目標としている。

中世文学については、徒然草や方丈記など、とくに和歌的素養を基盤とした作品について、とくにその文体と方法を解明することを目標としている。

c 概要と自己評価

これまでの中世和歌史に関わる論文を改訂の上で集大成し、研究書『中世和歌史論 様式と方法』を刊行した。平安時代後期から中世後期までの和歌史を、和歌はなぜ続いたか、和歌における文芸的達成とはどう見計らうべきか、という課題の解明に主眼をおきつつ、様式意識の視点から史的に展望した著書である。その他、『源氏物語』と和歌、万葉集、西行の恋歌（2本）、新古今集と立原道造の論文を発表した。高大接続を意図した古典教育の論文も1本公刊した。専門的な研究にとどまらず、古典研究の現代的意義についてできるだけ積極的に発言するよう努めた。

d 主要業績

(1) 著書

単著、渡部泰明、『中世和歌史論 様式と方法』、岩波書店、2017.3

(2) 論文

渡部泰明、「和歌史における『源氏物語』、『新時代への源氏学 8 〈物語史〉形成の力学』、竹林舎、2016.5

渡部泰明、「和歌をつくる」、『和歌文学研究』、第112号、和歌文学会、2016.6

渡部泰明、「西行の恋の題詠歌」、『西行学』、第7号、西行学会、2016.8

渡部泰明、「始まりの出会い——立原道造と和歌の世界——」、『孤帆』、第39号、孤帆の会、2016.11

渡部泰明、「西行の恋の題詠歌・続」、『説林』、65、愛知県立大学国文学会、2017.3

渡部泰明、「万葉集における「縁語」」、『上代文学』、第118号、上代文学会、2017.4

(3) 学会発表

国内、渡部泰明、「万葉集における「縁語」」、上代文学会シンポジウム、東京大学、2016.11.26

国内、渡部泰明、「正徹の幽玄」、日本文学協会大会シンポジウム、相模女子大学、2017.11.19

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

放送大学客員教授、2016・2017年度

(2) 学会

和歌文学会、常任委員、2016・2017年度

中世文学会、常任委員、2016・2017年度

西行学会、常任委員、2016・2017年度

中古文学会、委員、2017年度

(3) **学外組織（学協会、省庁を除く）委員・役員**

日本学術会議、連携会員、2016年度

日本学術会議、会員、2017年度

日本学術振興会学術システム研究センター、専門研究員、2016・2017年度